

ぶんかのみ



ぶんかのみ vol.19

なかのあけみ 刈谷市在住。10歳よりバレエを始める。'97年ニューヨークへバレエ短期留学。同年9月アン・バレエ・アカデミー設立(大正町)。以降毎年ニューヨークへバレエ研修し、キャット・ワイルディッシュに師事。'01年~'04年余バレエアカデミー教授法クラス受講、故余芳美に師事。'04年刈谷文化奨励賞受賞。'10年刈谷文化賞受賞。'10、「'12、「'14、「'17年ニューヨークにて生徒達が、キャット・ワイルディッシュ主催『Dance Show Case』に参加。'17年10月アン・バレエ・アカデミー20周年記念公演『コッペリア』全幕を開催する。



バレエ講師
中野 明美氏
アン・バレエ・アカデミー
Q 検索

「夢は刈谷で海外バレエ団とのコラボ!」

バレエ教室を始めたきっかけは?名古屋のバレエ団に所属していた時、心身共に限界がきて、旅行をしたりしばらく友人のいたウクライナのキエフに行くなどリフレッシュしていました。その後さらにプライベートで落ち込むこ



とがあり、生きがいを持つにはバレエしかないと思い、新たな気持ちでバレエを始めようとニューヨークのオープンクラス(所属がどこでも単発でレッスンが受けられるクラス)を受講しました。そこで出逢った先生がすごいとしか表現できないほど強烈な方で、ほぼ同じクラスに2か月半通い、その先生から「あなたにはバレエの受賞歴はないけど、楽しいレッスンができる。」と言われ勇気をもらい、帰国して2か月間の準備で教室を開きました。

子どもたちに伝えたいことは?

例えば4歳でバレエを始めたら、中学生でやっとバレエの本当の楽しさが分かると思います。バレエは繰り返しのレッスン。辛く、苦しいレッスンでも、一年に一度の舞台で達成感を味わうことが出来ます。今時の子どもに足りない努力する我慢する力がバレエで培われると思います。バレエは言葉を使わない世界なので「アイスクリームを食べているときを思い出して」と言ったりして想像力が育つように指導しています。

今後の目標・展望は?

オープンクラスの先生とのご縁で、毎年ニューヨークに行きます。そこで生徒を踊らせる目標は叶えました。今年10月の20周年記念公演は、プリンシパル(主役級のダンサー)を招いて生徒と一緒に舞台に立たせます。その次は壮大すぎるけれど、プリンシパルの所属するカンパニーに来てもらい、生徒とのコラボを構想。刈谷市は産業都市と言われていますが、文化施設も充実している刈谷市総合文化センターでぜひ公演したいですね。



[担当:野村・井野]

■詳細は、文化工房かりやのブログ[<http://bkkariya.wordpress.com/>]で!

市民目線の
“キキミミ”
文化

文化工房カリヤ
カリチャー俱楽部

第3・4水曜日
午後4時から
1時間放送

Pitch FMラジオ番組
Pitch FM 83.8
83.8MHz

文化・芸術とアイリスを身近なものに。

文化工房カリヤ

市民目線の文化発信、「みんなで文化、創造中。」

〒448-0858 愛知県刈谷市若松町2-104

TEL:0566-21-7430 / FAX:0566-21-7440

mail:bunkakobo@kariya.hall-info.jp

Twitter : @B_K_kariya

Facebook: bunkakouboukariya

Blog: bkkariya.wordpress.com



FREE

BUN-KA

Kariya Culture [ブンカ]



アキ号
21
2017

マリンバ奏者
近藤幹夫さんに聞く
マリンバの魅力

[アールマルシェ ちよこっと裏話]

音響ラプソディー

[ぶんかのみ]

バレエ講師「中野明美」

文化工房カリヤ

クラシック音楽の演奏といえば、まずオーケストラや吹奏楽が頭に浮かびます。オーケストラは主に弦楽器・管楽器・打楽器で構成され、吹奏楽では弦楽器はコントラバス、ハープ等に限定され、主に管楽器と打楽器で構成されます。ポップスにおいては打楽器の役割はやはり楽曲のリズム、クラシックにおいては直接「音」を表現します。シンバル一発で華やかさを引き立たせたり、キラキラとした装飾を施したようなグロッケンの音、大砲の音、動物の鳴き声といった効果音的な役割も果たす場合もあります。“マリンバ”という打楽器について、マリンバ奏者の近藤幹夫さんからお話を伺いました。



01 ハワイのマリンバの魅力は「音(おと)!」

マリンバとは木鍵盤の下に共鳴管をもつ大きな木琴で、主にゴム製の芯に毛糸を巻いて作られたバチで打奏する打楽器。アフリカ民族楽器として生まれ、人々と共にアメリカ大陸へ。20世紀北米シカゴを拠点に近代的な改良が図られ現在の形になりました。自分はマリンバの音が好きで弾き続けています。マリンバの音色、響きというのは樹木からの贈り物のようです。実際に音を聴いてもらい一緒に共鳴して頂きたいです。

世界一マリンバが盛んな国、日本!?

「マリンバの母」と呼ばれている演奏家が日本にみえます。その方は安倍圭子さん!「独奏楽器」としてのマリンバ確立を目指してきた「開拓者」。マリンバのオリジナル作品を数多く作曲され、世界にマリンバを広げていきました。現在も世界各地で活躍されている国際的マリンバ奏者です。安倍さんのおかげで日本はマリンバが盛なんですよ。NHK「きょうの料理」のテーマ曲のマリンバ演奏は、安倍圭子さんがされています。

02 打楽器がフィーチャーされているクラシック音楽

カバレスキー組曲「道化師」より 「道化師のギャロップ」

打楽器が中心となって演奏されている曲は数少ないのですが、シロフォンがソロをとっているこの曲は運動会で流される定番曲で、一度は耳にされたことがあるかと思います。

ドボルザーク交響曲第9番 「新世界」第4楽章

曲中、シンバルは全曲を通して第4楽章の一打ちだけ。でもこの一打ちが重要です。ここでいう“新世界”とは当時ドボルザークが赴任していたアメリカを表しています。シンバルの一打には譜面にSoloと書かれており、シンバルのSoloを幕開けに故郷であるチェコ・プラハの伝統的な旋律をクラリネットが奏していきます。シンバルの音が持つ意味を奏者自身が考え、世界中の奏者が様々な奏法で演奏しています。ドボルザークは故郷に想いを馳せ新天地でこの作品を書き上げたのではないかでしょうか。

ラヴェル 「ボレロ」

スネアドラムが同じリズムで曲の最初から最後まで演奏し続けます。曲の途中からスネアドラムが2台になっていきます。どこから2台で演奏されていくのか聴いてみると面白いです。

スティーブ・ライヒ 「Nagoya Marimbas」(ナゴヤ・マリンバス)

ミニマル・ミュージック^(※1)の巨匠かつ、現代音楽作曲家。タイトルに“ナゴヤ”とつけ、名古屋・しなかわホールのこけら落としのためにライヒへ委嘱されました。マリンバ二重奏による作品でマリンバ奏者で知らない人はいない程の名曲。そして、無事に曲が終わるか…と皆日々に話すほど「楽譜通りに終曲する事」が困難な曲と知られ、その訳は一度耳にして頂けるとわかると思います。

^(※1)パターン化された音型を反復させることにより薄いビニールフィルムを振動させた時のピーンという音を出す。

[担当:井野、野村、磯村]

ポップスにおいては
楽曲のリズム、
クラシックにおいては
直接“音”を表現

Mikio Kondo Marimba

MEXICAN MARIMBA / MARIMBA NANDAYAPA

メキシコ発!マリンバグループ「マリンバ・ナンダヤパ」

近藤幹夫 マリンバ奏者

愛知県出身。名古屋芸術大学音楽学部器楽科打楽器専攻卒業、同大学大学院音楽研究科器楽専攻修了。これまでに国際芸術連盟新人オーディション入賞、推薦コンサートに出演。オーケストラとの共演も多くこれまでにセントラル愛知交響楽団コンセルトシリーズNo.26、No.37等にてソリストを務める。現在 中部打楽器協会理事、ヤマハミュージッククリテイリング、名古屋音楽学校各講師。刈谷市総合文化センターレジデンツアーティスト。HP[kujirara.jp]



刈谷市総合文化センター アトリウム イベント
アールマルシェ 芸術市場
ちょこっと裏話 その12 音響ラブソディー



2012年12月8日にスタートしたアールマルシェは、まもなく5周年を迎えます。今回は、第1回目の公演から、ずっと舞台と音響を担当してくださっている総合文化センターの早川館長にお話を伺ってみました。「アールマルシェをやるようになって、音響の勉強を始めたよ」ホールの舞台監督もされている早川館長。もともと持っている音響の知識からさらに専門的な領域へ踏み込んだ内容の勉強を始められたそうです。心掛けているのは「聴きやすい音」であること。「特にバンドの時はモニターの音に神経を使うね」客席用のスピーカー以外に、ステージ上の演者用のものがあって、それをモニター(正式にはモニタースピーカー)と言います。モニターの音の調整がよいと、演奏しやすくて気分もノってきます。「聴きやすかったってよく言ってもらえる」と、ちょっと照れくさそうに笑って答えてくださいました。「他の人が音響をやっている時は、こうしてって言えるけれど、自分がやっていると甘くなるね(笑)」時々、文化工房かりやのスタッフが音の調整をお願いする事があり、それに関しては「もちろん言ってくれていいよ」とお返事をいただきました。実は、素人の私たちが口を出してもいいのかな?と恐る恐るお願いしていたのですが、これで安心です!この他に、これからアールマルシェの事など、いろいろとお話しさせていただきました。内容は割愛しますが、今後の活動に反映していければと思っていますので、お楽しみに。

最後に、“この際だから言っておきたい事”を伺ってみました。うーんと考え込んだ後に「ま」と一文字だけ返ってきました。ま?と首をかしげていると「ちょうど忙しい時に、あいさつに来たりするんだよな。もうちょっと“間”を見極めてくれよ(笑)」——はい、努力します!

[担当:柴田]

公演スケジュール N°32 11月18日(土) 13:00~14:30

出演 Jaxy's Saxophone Ensemble (ジャクシーズサクソフォンアンサンブル)
《サックスアンサンブル》/ Trip nostalgie (トリップノスタルジー)《エレクトリックアコースティックギター&ボーカル》/ おたまじやくし(合唱)

♪5周年記念イベント 2018年1月27・28日開催